

ラオスの 子ども通信

61号
2014年7月発行

発行：(認定)特定非営利活動法人 ラオスの子ども

- 学校のわくを越えて、地域に図書室を ▶ p.1
- はじめる・つながる・つくりだす [2014.4-2014.6]
ラオス発 ▶ p.2 日本発 ▶ p.3
- みんなでボランティア ▶ p.4
- 勉強会報告 ▶ p.4
- メコンのほとり「托」 ▶ p.4



学校のわくを越えて、地域に図書室を

30校/村を訪問して聞き取り

学校図書活動の拠点を地域に広げることが目標に、2014年2月から始まったプロジェクトは、4年間にわたる事業です。前号でもお知らせしましたが、今号は現在進めている基本調査の様子を報告します。

対象は中国、ミャンマーと隣接するルアンナムター県のナムター郡、ナーレー郡、そして首都の周辺であるヴィエンチャン県のサナカム郡、ムーン郡、ファン郡、メート郡、計6郡の小中学校16校です。経済的に厳しい地域が多く、特にナーレー郡是最貧困郡とされ、開発優先郡と位置付けられています。

2月から4月にかけて対象校(村)を選定するための調査を実施。当会スタッフ3人、県教育局職員1人、郡教育局職員1~2人がチームになり、各郡5校(村)、計30か所を訪問し、地域と学校を調査し、校長先生と子どもたち、村長と村の人たちにインタビューしました。

子どもたちからは、本を読みたいという気持ちがどこに行っても伝わってきます。



校長、村長への聞き取り(ルアンナムター県ナーレー郡)

地域/学校では「準備」ができています

担い手となる先生方は、どうでしょう。例えばヴィエンチャン県のファン郡で、ある校長は、この部屋を図書室に充てたい、こんな図書室にしたいという具体的なプランを話してくれました。また、地域をあげて教育に力を入れているムーン郡のある学校は、当会が読書推進活動を行う拠点を探していることを聞き、ぜひ参加したいと申し出ました。

当会ラオス事務所所長のスラピーは、「長年こつこつと続けてきた読書推進活が浸透している」と手ごたえを感じています。

これまで、本は受け入れたものの、結果として持て余す学校もありました。学校の責任者である校長の理解がカギ、という教訓があります。だからこそ、このプロジェクトでは、学校・地域・教育行政の三位一体をめざし、校長・村長・行政官と当会が膝を詰めて話し合いました。そうして、このプロジェクトになくはならない村長や村の人々も待ち望んでいることが確認できました。

学校のわくを超えて地域に図書活動を根づかせようという取り組みについて、当会スタッフで現場コーディネータのスックパンサーは「今までで一番難しいプロジェクトだと思ったけれど、調査を終えてみると、多くの学校、村長が図書室のアイデアを示し、開設後のイメージを持っているなど、すでに準備ができていたことがわかりました。可能性の高い学校/地域ばかりでないけれど、根づいていく道筋が見えてきました」と語ります。

調査を経て、対象校16校を決定。9月の図書室開設に向けた準備が始まっています。

いくつも山を越えて辿り着いた村。自然が広がるこれらの地で、子どもたちが読書する姿が目に見えます。(本多敏子/ラオス事務所)



村の人への聞き取り(ルアンナムター県ルアンナムター郡)

ラオス 発

中学高校に、学校図書室(ハックアーン・HA)を開設

ブアラパー中学高校 (HA240)

4月24日～25日、カムアン県ブアラパー郡のブアラパー中学高校に図書室を開設しました。郡の中央にあり、生徒数628人、教員数21人、14教室の学校で、図書室担当として4人の先生が配置され、研修を受けました。貸出しの作業など図書室運営をサポートする生徒もたくさん集まり、ラベル貼りを手伝い、図書整理の方法を習得しました。みんなで図書室を支えていく姿勢が心強いです。

2日目に図書室をオープンすると生徒が一斉に来室。気に入った本を借りに来ます。習ったばかりの貸出業務を行う先生たちは緊張気味ですが、本を手にして喜ぶ生徒の声で図書室は賑やかです。これからも活発に利用される様子がうかがえます。

(ベルマーク教育助成財団によるご支援)



図書管理のためのカードについての研修。ブアラパー中学(HA240)

フアイルーク中学校 (HA106)、ポンミーサイ中学高校 (HA111)

3月17日～18日、カムカード郡ポンミーサイ中学校に、3月24日～25日、ボリカムサイ県ターバパート郡フアイルーク高校に、それぞれに図書室が移設されました。以前は県内の幼稚園に設置されていましたが、より有効に活用するため、教育局と当会が協議し、近隣の小学校の図書室を共同利用することにし、未設だった2校に移転開設したものです。もちろん蔵書は対象年齢に合わせてそろえました。先生たちは研修を受け、新たな図書室としてスタートしています。



ポンミーサイ中学高校にオープンした学校図書室(HA111)



思い思いの本を手にとって読む生徒たち。フアイルーク中学校 (HA106)

カラーリボンプロジェクトで絵を描く

「世界の子どもたちに色とりどりの未来を」と、(株)フェリシモによるカラーリボンプロジェクトで500色のクレヨンセットを提供いただきました。3～4月、子どもセンターなど10か所に届け、みんなで絵を描きました。

何しろ500色です。子どもたちはビックリしました。ラオスの子どもたちは塗り絵はおなじみですが、創造的な絵を描く機会はほとんどありません。そこでテーマを決め、自分の好きなイメージで描けるようにスタッフがリード。すると、ものすごい勢いで描き始めました。魔法の木の果物、動物、乗り物、僕・私の家、水の中の生物、身の回りの物。色の濃淡も使い分け、これまで見たことがないであろうカラフルな絵が完成すると、あちこちで歓声が上がりました。この経験をきっかけに、自由に描く楽しさをもっともっと広げることを願います。

(本多敏子/ラオス事務所)



企業のみなさまからご指定いただいたプロジェクトの進行状況

- ◆ 株式会社ファンケル
「フェアトレードフーズ」寄付金による当会ラオス事務所併設図書館の運営支援
- ◆ キヤノン株式会社
ラオス語図書「折り紙ハンドブック」の出版。編集レイアウト作業中
- ◆ 学習院女子大学
ラオス語図書「折り紙ハンドブック」の出版。編集レイアウト作業中
- ◆ ベルマーク教育助成財団
既設図書室のフォローアップの準備中
- ◆ 株式会社すかいらーく
ラオス語図書子ども向け5種。出版準備中

(敬称略・事業開始順。記事掲載以外のプロジェクト。個人のみなさまからいただいたご寄付は別紙に記載がありますので参照ください)

国際子どもの日2014

5月31日、ヴィエンチャン都教育スポーツ局の「国際こどもの日」イベントが催され、子ども、先生、保護者など約500人が訪れました。開会式で教育スポーツ省副大臣が、「子どもの発達には保護者と教員だけでなく、NGO、企業、すべての行政機関が責任を負うとスピーチしました。会場では、青少年関連団体やネスレなどの企業がブースを出し、それぞれ子どもを惹きつける企画、出し物を行いました。

当会がブースを出したのはヴィエンチャン都子どもセンター(CEC)の1階です。読書、お絵かき、折り紙、読み聞かせや本の販売をし、200人ほどの子どもとおとなが途切れることなく訪れました。他のブースでは昼食時間は人足が途絶えましたが、当会はずっと子どもたちであふれていました。

あるお母さんはわが子が楽しそうに参加している姿に、本を買った後、「このブースの活動は創造的。学校でもやってほしい」と会のスタッフに話していました。

絵本のいちばんのお客さんは、あまりお金を持っていない小さな子どもです。一人の男の子が本をしばらく見まわして、「5000キップ(約60円)の本はないの?」と聞いてきました。残念ながら、ありません。でも、ちょっと考えて、「いいよ、一つ選んでごらん」と男の子に言いました。その子が『サルとまほうのしっぽ』を手にとると、「5000キップだよ」と言いました。(スックパンサー/ラオス事務所)



当会の書籍販売コーナー

日本発

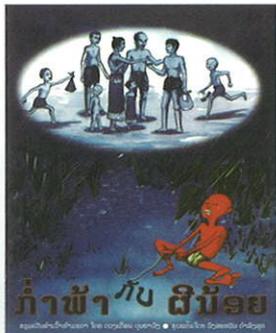
<出版プロジェクト>

● キヤノン株式会社のご支援

絵本:「カンパーとピーノイ(孤児と小さなおばけ)」

再話:ドゥワンドゥアン ブンヤボン
絵: ヴォンサヴァン ダムロムスック
あらすじ:ある日カンパーはジャングルで暮らすようになり、そこにいるひもじいおばけたちはカンパーに悪さをしようとした。しかし神様は、カンパーを手伝ったり優しくすれば、ひもじいおばけではなくなるとアドバイスをする。おばけたちはカンパーの畑仕事を手伝うようになり、カンパーはご飯を分けるようになった。ある日、カンパーがゾウから象牙をもらい大切にしていると、その中から美しい娘が現れた。カンパーは娘と一緒に暮らさないかと誘い、仲良く暮らすようになった。

ラオスで最もよく知られている昔話で、子どもたちに人気が高い作品です。当会でも1990年に出版以来、4回に渡って改訂をしながら出版を重ねています。今回の出版は、2003年に出版した全48ページ・カラーの第4版です。



ピーマイ・パーティー2014

4月20日、「ラオスを見る・知る・感じる!ピーマイ・パーティー2014」を開催。今回は32回目、参加者約160人でした。ラオス語絵本作り体験などのブースめぐり、パーシー儀式体験、絵本・紙芝居の読み聞かせ、ラオス航空券があたるクイズ、みんなで踊るパーサロップなど盛り沢山の内容を通して、ラオスや当会について見る・知る・感じる!時間になったと思います。日ラオのボランティアが作ったラオス料理は今年度も大好評でした。多くの方にご協力いただき、大盛況のうちに終えました。本当にありがとうございました。(飯川桃子/インターン)



ラオス人のノックさんがパパイヤサラダづくりを実演

「初夏をまとう ラオス木綿」

5月2日から6日まで、浅草の孔雀堂画廊で木綿製品を中心に、ラオスのホアイホン職業訓練センターの商品を展示販売しました。

ひとつひとつが手織ぎ、手織りです。時間と手間がかかるこの製法に、来場したみなさんはとても驚いていました。



チャンタソンによる講演

「ラオスの女性は、一枚の布に家族への愛情を込めて織り上げます。細かい模様を何か月もかけて織るんですよ」と、各地の布や織る人の心を代表チャンタソンが語りました。

(尾澤美春/東京事務所)

ラオスフェスティバル2014

5月24日、25日、東京・代々木公園でラオスフェスティバルが開催され、2日間で18万人が来場しました。ラオスのこどもでは、会が作ったラオス語の絵本や辞書、雑貨の販売をしました。当日はお天気に恵まれ、当会ブースもたくさんの方の来場者で賑わい、ラオスを知っている人から知らない人まで、多くの人に活動を伝えることができる機会となりました。ラオス語を勉強中とのことで絵本を購入する人が



多く、日本でも様々な視点から絵本が活用できると思いました。(廣瀬未奈/理事)

みんなでボランティア

皆さんから刺激をもらえます

根岸琴季さん(学習院女子大学)

私がラオスのこどもと関わったのは、大学の授業の一環としてイベントに参加したことがきっかけでした。イベントなどを通してスタッフの方と交流を続けていくうちにラオスについて、ボランティアについて、もっと知識を深めたいと思うようになりました。皆さん素敵な方ばかりで、豊富な経験や考えに刺激をもらえます。ラオス語を専門に勉強している方、ボランティアを長年やってきた方、ラオスの留学生などとお話することで自分の考え方が広がります。それが、私がボランティアを続ける大きな理由にもなっています。

今年は初めてラオスに行く予定です。出会いや縁を大切に自分自身を成長させていきたいです。



「勉強会」報告

「駐在員報告会」

読書活動が活発に行われるために

(2014年6月21日 ライフコミュニティ西馬込)

当会が図書を配付している小中学校で読書活動がしっかり定着して、活発に行われるための取り組み(日本NGO連携無償資金協力事業「小中学校における図書活用強化事業」第2期)について、本多駐在員が報告をしました。

この取り組みでは、国の図書事業全体を司るラオス国立図書館のスタッフと当会スタッフが対象校を訪問し、図書担当教員に成果や課題などを聞き、それぞれの学校に必要なアドバイスとトレーニングを行いました。この事業終了後は、対象校の9割以上で図書室が定期的に開放され、

閲覧・貸出が行われる環境が整い、先生がこれまでよりも積極的に授業で本を活用していることが確認できました。

本多駐在員は「図書を配布したら終わりではなく、利用状況の調査やフォローすることで、図書利用が継続的に行われるようにすることが大事です」と強調しました。



表紙の写真

当会ラオス事務所の子ども図書館の常連さん。近くの中学校の生徒たちです。手に持っているクジラの絵は、昼休みにやって来て、急ぎょ開いた絵のワークショップに混ざって描いた作品。出来上がりに満足そう。壁の虹は、本をたくさん借りた子の写真が貼ってあります。ここは小中学生のくつろぎ空間でもあります。折り紙や塗り絵、おもちゃ作り、コミュニケーションゲームなど各種用意して、いろいろな年齢の子たちが一緒に遊んでいます。仕上げた絵、作ったものを持って帰るときのうれしそうなお表情も、すてきです。

特定非営利活動法人 ラオスのこどもの目的は、子どもたちが自らの力を伸ばし、人生を主体的に選択でき、公正で平和な地球社会づくりに貢献することです。教育が十分に普及していない地域のひとつラオスで活動し、ラオスと日本をはじめ子ども、人々の参加を通じて、だれもが成長の機会を得ることをめざします。

ラオスのこども通信 61号

2014年7月発行 編集人: 森 透
発行: Action with Lao Children / DeknoyLao
(認定) 特定非営利活動法人 ラオスのこども
〒143-0025 東京都大田区南馬込6-29-12 ミキハイツ303
TEL/FAX 03-3755-1603
e-mail: deknolao@yahoo.co.jp
http://deknolao.org
都営地下鉄浅草線 西馬込 南口下車 徒歩7分
郵便振替 00140-6-462494

これからの予定 2014年9月~12月

2014年も活動ミーティングを奇数月、勉強会を偶数月、それぞれ第3土曜日に開催します(一部異なる日もあります)。

<活動ミーティング>

現地報告、国内イベントの打ち合わせ、会の運営の意見交換などを行います。

11/15

<勉強会>

10/18、12/20

*各回とも内容は企画調整中です。日程とも変更になる場合があります。内容や会場とあわせ、詳細はホームページでお知らせします。みなさんの参加お待ちしております。

<2014年度通常総会>

9/20(土)14:00~17:00

ライフコミュニティ西馬込2F(都営浅草線「西馬込」駅南口徒歩1分)で開催します。

メコンのほとり托

早起きをして托鉢を

仏教国であるラオスにとって欠かせないのが、朝の托鉢。托鉢とは、僧侶が信者の家々を巡り食糧などを乞う修行のことです。5~6時になると人々は僧侶が通る道に出で行きます。ちなみにヴィエンチャンの日の出時刻は5時半ごろ(2014.7.13で5:41)。まだ暗いうちです。

オレンジ色の袈裟をまとった僧侶が来ると、カオニャオ(もち米)やバナナの葉にくるんだ肉、菓子類などを渡します。近年では、托鉢自体が観光化されている地域もあり、観光客向けに僧侶へ渡す用の食べ物を売ったり、道にゴザを敷いて座布団や椅子を用意するところもあるそうです。なお、同じ仏教国の隣国タイでは、高カロリーのもの托鉢に出されることが多くなり、お坊さんは肥満に悩んでいる、と報道されています。是非ラオスへ行った際は、早起きをして托鉢を体験してみてくださいね。(菊地美玲/東京事務所)

